

曳き手

ねぶた祭りは、ねぶたの山車を中心に展開し、これは曳き手（山車の運び手）が動かしています。それぞれの山車には20人前後の曳き手がおり、通常は若い男性で、山車の真下の前側に10人、後ろ側に10人が配置されています。ねぶたの山車は大きなトラックのタイヤに支えられており、重さは4トンにもなるため、曳き手をするのは大変な仕事です。運び手は水平な木製のポールを押して前後させたり、360度に旋回させたりしながら山車を操縦するのを任されます。つまり、曳き手はショーを動かす責任を負っている人たちなのです。

曳き手は山車の前に立ち、笛と扇子の動きで方向を伝える扇子持ち（山車の案内人）からの指示を受けます。様々な笛のトーンや扇子の動作が、曳き手に最もダイナミックな動きをするための山車の操縦方法を伝えます。ただ真っ直ぐに押すというよりも、曳き手は扇子持ちの指示に従い、観客に向けてねぶたの山車を停止させ、傾けるので、観衆は複雑な細部を間近に見ることができます。